



(長 野)

本遺跡は、現水田景観に

地に立地しており、標高三
五六m前後である。遺跡の
東側の自然堤防上には弥生
時代から平安時代に至る遺
跡群が並び、西側の山麓部
には、川柳將軍塚古墳をは
じめとする古墳群が構築さ
れている。

石川条里遺跡は、千曲川左岸、長野市篠ノ井塩崎の南西部に広がる水田地帯、千曲川の自然堤防によって隔てられた大規模な後背湿

- 1 所在地 長野市篠ノ井塩崎
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)六月～一九九一年(平3)五月
- 3 発掘機関 (財)長野県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 白居直之
- 5 遺跡の種類 居館・祭祀・集落・水田跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代前期・弥生時代中期～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

長野・石川条里遺跡

残された条里制地割と埋没した水田遺構からなる遺跡として、長野市教育委員会により数年来継続して調査が行なわれてきたが、今回の調査は、長野自動車道建設に伴って、約七万㎡を対象として実施された。総面積六〇〇haに及ぶ後背湿地には、微地形が入りこんでおり、本発掘調査においても微高地が二カ所確認された。微高地では縄文・古墳・古代・中世の各時代の遺構・遺物が検出され、とくに古墳時代の遺構群は祭祀的な性格をもつ特殊なものとして注目されている。低湿地では弥生中期からの水田遺構が確認さ



木簡出土状況

木簡は、微高地から一五〇m程離れた水田域から出土した。中世

8 木簡の积文・内容

(1) 「符籙」
鬼鬼 鬼急々 如律令 北

251×49×7 011

(2) 「符籙」
□水急々如律令 西

249×46×5 011

水急々如律令 西

(3) 「(符籙) □□急□□□令 □□〔南力〕」

252×50×4 011

252×50×4 011

(4) 「天□」 250×46×6 011

250×46×6 011

(5)

鬼鬼鬼

□鬼鬼

□鬼鬼

鬼鬼

鬼鬼鬼

□

□□

急

□

□

□

令

207 $\times (36) \times 3$ 081

9
関係文献

長野県埋蔵文化財センター『長野県埋蔵文化財センター年報』5
 8（一九八〇—一九九一年）

(白居易之)

